

学校 教育 目標	「生きる 創る そして輝く」を目標とし、子ども自らの「生きる力」を育てます。 (知) 知的好奇心を生かし、自らの力で学びを創る子どもを育てます。 (徳) 多様な相手の思いや願いに向き合い、自分の強みも大切にできる子どもを育てます。 (体) 自分や相手の心や体の健康を大切し、ともに生活できる子どもを育てます。 (公) 地域や社会における自分の役割を見つけ、行動に移す子どもを育てます。 (開) 多様な考えや思いにふれ、さまざまな他者と前向きに関わり合う子どもを育てます。				
学校 概要	創立 153 周年	学校長 杉山 嘉子	副校長 山田 宗資	2 学期制	一般学級: 24 個別支援学級: 8
	児童生徒数: 808 人 主な関係校: 栗田谷中学校、幸ヶ谷小学校、二谷小学校、横浜朝鮮初級学校				

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	栗田谷中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
◎言語能力 ・多様な事象を分析し自分の考えを形成する力 ・伝え合うことで自分の考えを見つめ深める力 ◎問題発見・解決能力 ・協働的に学びや生活を創る力 ・課題解決に向けて、自己調整しながら粘り強く取り組む力 ◎自分づくりに関する力 ・自分らしさや相手のよさを、互いに認め合える姿勢(態度) ・多様な情報を俯瞰し、意思決定する力	栗田谷中学校 幸ヶ谷小学校 二谷小学校 青木小学校	未来を拓き、心豊かに生きる力 ・横浜プログラムや社会情動的コンピテンシーなどを活用した児童分析をもとにした授業や単元づくりの具体的共有を通して、児童・生徒の社会的スキルの育成を目指す。 ・対話的・主体的な学びを深めるために、児童・生徒どうしのやり取りを積極的に取り入れた授業づくりを心がけるとともに、ブロック校に共通のテーマである児童・生徒の「自己有用感」を高めることにつなげる。 ・主体的・対話的で深い学びの充実に向けて、ICTの効果的な活用を意識した授業づくりを目指す。

中期 取組 目標	子どもたちの「生きる」力を育てるために、次の姿を目指します。 (知)・学習や活動に集中して取り組む姿・未知の問題や困難な場面に対してもチャレンジしようとする姿 (徳)・思いやりをもち、友達と協力して活動する姿・ルールの大切さを理解し、実践する姿・あいさつやマナーを大切に行動する姿 (体)・進んで運動に取り組み、体力アップに努める姿・自分や友達の心身の健康に意識を向ける姿 (公)・歴史ある青木のまちや学校へ愛着をもち、その伝統を受け継ぎ未来につなげていく姿・社会の一員として、自分の行動に責任をもとうとする姿 (開)・国籍や文化、性別や年齢などをこえて、多様な考え方に理解を示しながら関わる姿
----------------	--

重点取組分野	具体的取組
知 確かな学力	①横浜市学力・学習状況調査、Y-P等の結果と教師のみとりをもとに、児童が輝く場面を設定し、聞くことや話すことを通して学びを深めるように授業改善を図る。②各学級で生活や総合的な学習の時間を中心とした年間指導計画を作成し、カリキュラムマネジメントに取り組んでいく。
徳 豊かな心	①道徳を要した学校の教育活動全体を通して、自分や相手のよさを認め合いながら他者と関わることを楽しめる子どもの育成をしていく。②横浜朝鮮初級校との交流を通して、他者を理解する心を育て、人権感覚を豊かにする。また、人権週間・月間の取り組みを通して、その意識を継続的に高めていく。
体 健やかな体	①運動に親しむ機会として年間を通じて体力アップの時間を設け、運動委員会を中心に企画、発信していく。また、家庭で取り組める運動例を学校HPなどで年度初めから発信していく。②健康課題を学校保健委員会で議題に取り上げ、児童から生活改善を図れるようにしていく。また、食育タイムを通年で行うことで食への関心を引き続き高められるようにする。
公 自分づくり教育 (キャリア教育)	①学年で実践例を共有することで、学年の実態に即した生活・学習にかかわるめあてと振り返りのあり方の充実を図る。②たてわり活動、プロジェクト活動については、自分らしさや相手のよさを認め合う姿勢を育むために、めあてと振り返りについての共有を通して、評価の具体化と内容の充実を図る。
いじめへの対応	①「子どもの社会的スキル横浜プログラム」の今までの記録を活用しながら実践していくことで支援の積み重ねを図る。②「青木小学校いじめ防止基本方針」に児童の思いや言葉を取り入れながら、継続していじめの未然防止・早期発見に努めていく。
人材育成・組織運営(働き方)	①職員会議を月に一回設定し、円滑に職員間での情報共有と協働的な組織運営を進められるようにし、学年研などで教員同士が互いに自分を見つめ、高め合えるようにする。②メンティがより自律的に学べる環境づくりをし、メンティ同士で学び合ったり、先輩教職員からの助言を受けたりできる研修や授業研究会を行う。
特別支援教育	①継続して日頃から教職員誰もが子どもたち一人ひとりに合った支援ができるように、学校・保護者・専門機関等と、連携を密にし、個別の指導・教育支援計画を作成していく。②特別支援教育のより充実のため具体的な支援や声掛け、接し方を打合せ等で共有していく。
児童指導	①廊下や階段を安全に歩く、進んで挨拶をする、掃除を丁寧に行う、人の話をしっかりと聴く等、委員会や学年などで子ども自身が考えた活動に継続して取り組む。②各学年の児童指導計画を基に事案が起きてから指導する機会と捉えるのではなく、年間のカリキュラムも関連させ、指導の積み重ねをしていく。
情報教育	①引き続きロイロノートを活用することで、協働的な学習の機会を増やし、質を高めていく。②AIDリルの活用で個別最適な学習を目指す。③モラル教育は各学年の実態やカリキュラムをもとに、ICT支援員とも協力しながら、適切なコンテンツを選択して、知識・技能の高まりと道徳的な心の育みを目指す。
多文化共生	①横浜朝鮮初級校や国際教室の交流を通して、互いの文化の違いを認め合い、互いのよさに気付くようにする。②生活科や総合的な時間、社会科、青木のまちの風総会などで、地域の人々や社会と関わり合い、青木のまちの一員として自分の行動に責任をもてるようにする。